国士舘100周年創立記念祭

陸上競技部

陸上競技部の発足と歴史

～100周年のその先に～

陸上競技部は、昭和31年に金子藤吉教授が初代の部長に就任され体育学部1期生を中心に創部された。その後、服部利夫先生、西山一行先生と部長を務め、青山利春先生が監督に就任し現在の陸上競技部が成り立っている。初代金子先生の言葉の中に「九十九里をもって半ばとする」「競技と学問とは両輪」と数多くの言葉を残されており、今でもその言葉を胸に選手の育成、指導に精進している。昭和の時代には、世田谷校舎300mトラックでの練習では土でできており砂まみれになりながら練習を行ってきた。多摩に体育学部が移転すると同時に、400mオールウェザートラックが完成し素晴らしい環境の中でトレーニングに励む事ができている。創部をして以降、卒業生の皆さんが陸上競技部の伝統を築きあげその成果として優秀な学生、OB、OGを育成する事が出来た。

関東学生陸上競技対校選手権大会に参入し、2部校制度ができてから1部から2部に一度も降格をしていない。投擲種目の活躍が目立つが、短距離、跳躍、長距離、競歩とチーム一丸となり1部を死守してきた。学生のオリンピックと言われるユニバーシアードにも数多くの選手を輩出し活躍をしている。また、学生の試合のみならず日本選手権、世界大会、アジア大会等学生時代に沢山の経験を積んできた。

国士舘大学が100周年を迎え陸上競技部からも沢山の卒業生を輩出してきた。酒井浩文選手、弘山晴美選手(旧姓鈴木)、森千夏選手、海老原有希選手、右代啓祐選手、新井涼平選手がオリンピックで活躍をした。また、右代選手は2016リオデジャネイロオリンピックで日本選手団の旗手を務めた。オリンピック選手のみならず、ワールドカップ、世界選手権、アジア大会など国士舘の看板を背負いメダル獲得や入賞をして活躍をしてる。

また、卒業生は競技のみならず多方面で活躍をしている。体育の教員は始めとする全国で様々な教科の教員が未来の国士舘の学生を育成を行っている。教員の他に、社会のリーダーとして一般企業に就職をして活躍をしている。このような活躍の裏には、陸上競技だけではなく社会に通じる人間、社会のリーダーになる為に、将来教員になる為にと言う事を念頭に置き陸上と同様に指導してきた賜物だと思っている。そして何より、卒業生の皆様が良き伝統を築きあげて戴いたからだと感謝している。

国士舘は100周年を迎えこれから更なる進化、変化をしていく。陸上競技部も遅れをとることなく、時代に流されるのではなく時代と共に流れ進化、変化していかなくてはならない。オリンピック選手や世界大会で活躍できる選手の育成は勿論の事、これから更に複雑な社会になっていく事が予想される時代を強く、逞しく生き抜いていける力を持った人間形成を念頭に置き更に活躍していきたいと強く思っている。

国士舘大学陸上競技部　監督　岡田　雅次

陸上競技部の競技成績

年度	選手名	記録
昭和42年（1967年）	青山　利春	ユニバーシアード　円盤投　第7位
昭和48年（1973年）	古賀　丈雄	ユニバーシアード　5000m/10000m出場
昭和53年（1978年）	秋元　恵美	バンコクアジア大会　100mH　金メダル
昭和57年（1982年）	秋元　千鶴子	ニュデリーアジア大会　400mH出場
昭和58年（1983年）	秋元　恵美	ヘルシンキ世界選手権大会　100mH出場
昭和60年（1985年）	岡田　雅次	ユニバーシアード　やり投出場
	前田　裕孝	ユニバーシアード　円盤投出場
	倉田　良枝	ユニバーシアード　100m/400mR出場
昭和61年（1986年）	前田　裕孝	ソウルアジア大会　円盤投　銀メダル
	秋元　千鶴子	ソウルアジア大会　400mH出場
昭和62年（1987年）	中野　種子（旧姓渡辺）	ユニバーシアード　マラソン出場
昭和63年（1988年）	酒井　浩文	ソウルオリンピック　20km競歩出場
平成2年（1990年）	酒井　浩文	北京アジア大会　20km競歩出場
平成6年（1994年）	弘山　晴美（旧姓鈴木）	広島アジア大会　3000m　銀メダル
平成8年（1996年）	弘山　晴美（旧姓鈴木）	アトランタアリンピック　5000m出場
	弘山　晴美（旧姓鈴木）	アテネ世界選手権大会　5000m　第8位
平成9年（1997年）	木曽　幸子	アテネ世界選手権大会　400mR出場
	渡辺　良子（旧姓坂倉）	W杯競歩　10km競歩出場
平成10年（1998年）	豊永　陽子	バンコクアジア大会　砲丸投　第5位
	渡辺　良子（旧姓坂倉）	バンコクアジア大会　10km競歩　第5位
平成11年（1999年）	弘山　晴美（旧姓鈴木）	セビリア世界選手権大会　10000m　第4位
	豊永　陽子	世界室内陸上選手権大会　砲丸投出場
	渡辺　良子（旧姓坂倉）	W杯競歩　20km競歩出場
	小川　博之	ユニバーシアード　10000m　第5位
	森　千夏	アジアジュニア　砲丸投　銅メダル
平成12年（2000年）	弘山　晴美（旧姓鈴木）	シドニーオリンピック　10000m出場
	森　千夏	アジア選手権大会　砲丸投　銀メダル
平成14年（2002年）	弘山　晴美（旧姓鈴木）	釜山アジア大会　マラソン　銀メダル
	豊永　陽子	釜山アジア大会　砲丸投　第6位
	渡辺　良子（旧姓坂倉）	釜山アジア大会　20km競歩　銀メダル
	森　千夏	釜山アジア大会　砲丸投　第5位
平成15年（2003年）	渡辺　良子（旧姓坂倉）	サン・ドニ世界選手権大会　20km競歩出場
	森　千夏	サン・ドニ世界選手権大会　砲丸投出場
平成16年（2004年）	弘山　晴美（旧姓鈴木）	アテネオリンピック　10000m出場
	森　千夏	アテネオリンピック　砲丸投出場
平成17年（2005年）	弘山　晴美（旧姓鈴木）	ヘルシンキ世界選手権大会　マラソン出場　第8位
	豊永　陽子	ヘルシンキ世界選手権大会　砲丸投出場
平成18年（2006年）	渡辺　良子（旧姓坂倉）	ドーハアジア大会　20km競歩　銀メダル
	高見沢　清子（旧姓嶋原）	ドーハアジア大会　マラソン　銀メダル
	海老原　有希	ドーハアジア大会　やり投　銅メダル
平成19年（2007年）	渡辺　良子（旧姓坂倉）	大阪世界選手権大会　20km競歩出場
	高見沢　清子（旧姓嶋原）	大阪世界選手権大会　マラソン　第6位
	豊永　陽子	大阪世界選手権大会　砲丸投出場
	谷内　雄亮	大阪世界選手権大会　50km競歩出場
	海老原　有希	ユニバーシアード　やり投　第8位
平成21年（2009年）	海老原　有希	ベルイン世界選手権大会　やり投出場
平成22年（2010年）	高見沢　清子（旧姓嶋原）	広州アジア大会　マラソン　第5位
	海老原　有希	広州アジア大会　やり投　金メダル
	右代　啓祐	広州アジア大会　10種競技　第4位
平成23年（2011年）	海老原　有希	大邱世界選手権大会　やり投出場
	右代　啓祐	大邱世界選手権大会　10種競技出場
平成24年（2012年）	海老原　有希	ロンドンオリンピック　やり投出場
	右代　啓祐	ロンドンオリンピック　10種競技出場
平成25年（2013年）	海老原　有希	モスクワ世界選手権大会　やり投出場
	右代　啓祐	モスクワ世界選手権大会　10種競技出場
	白井　裕紀子	アジア選手権大会　砲丸投　第7位
	堤　雄司	ユニバーシアード　円盤投　第8位
	新井　涼平	ユニバーシアード　やり投　第8位
平成26年（2014年）	海老原　有希	仁川アジア大会　やり投　第4位
	右代　啓祐	仁川アジア大会　10種競技　金メダル
	新井　涼平	仁川アジア大会　やり投　銀メダル
平成27年（2015年）	海老原　有希	北京世界選手権大会　やり投出場
	右代　啓祐	北京世界選手権大会　10種競技出場
	新井　涼平	北京世界選手権大会　やり投出場
平成28年（2016年）	海老原　有希	リオオリンピック　やり投出場
	右代　啓祐	リオオリンピック　10種競技出場
	新井　涼平	リオオリンピック　やり投出場

2005　ヘルシンキ世界陸上
弘山　晴美

2008　大阪世界陸上
嶋原　清子

2003　パリ世界陸上
森　千夏

2007　大阪世界陸上
豊永　陽子

2008　全日本実業団　優勝
大橋　忠司

2008　日本選手権　優勝
小林　志郎

2006　ドーハアジア大会
板倉　良子

2013 年世界選手権
右代啓祐

2013 年世界選手権
海老原有希

2016 リオオリンピック
新井涼平

写真提供：日本陸上競技連盟